

お知らせ

当院では、以下の臨床研究を多施設と共同で実施しております。この研究は通常の診療で得られた過去の記録をまとめる/保管されている試料を詳しく調べることによって行います。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんお一人お一人から直接同意を得ることが難しい場合には、研究内容の情報を公開することが必要とされております。

この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、下記の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】

「Thiel法で固定された遺体の組織学的評価の有用性」

【研究機関】

京都大学附属病院 消化管外科

愛媛大学医学部附属病院肝胆膵・移植外科

【研究責任者】

坂井義治（京都大学附属病院 消化管外科 教授）

【研究の目的】

骨盤内手術において腹腔鏡手術が普及し、内視鏡の拡大視効果により外科医に求められる解剖の知識は精細になってきました。これまで、ホルマリン固定された御遺体から得られた解剖書が外科医の手術地図となってきましたが十分ではありません。そこで、我々は従来のホルマリン固定法より生体情報を温存できる固定法（Thiel法）で固定された御遺体を使用することにより詳細な骨盤解剖モデルの作成ができると考えています。この固定方法（Thiel法）は一般的には手術手技研修で使用する御遺体に使用されています。そこで、全国で初めて手術手技研修センターを設立され、手術手技研修会を行うなど実績のある愛媛大学医学部解剖学・発生学講座と愛媛大学肝胆膵・乳腺外科学と共同でその御遺体を使用した骨盤解剖研究を行います。御遺体の一部から組織標本を作成し骨盤解剖の解明に貢献したいと思います。愛媛大学に献体された方々に敬意を払い生前の意思を尊重しながら、今後の医学の発展と手術を受けられる方々に少しでも還元したいと思っております。

【研究の方法】

（対象者）愛媛大学の白菊会会員の方で、生前に手術手技研修等の臨床医学の教育および研究での使用に賛同していただき同意を得た方の中で、2015年1月から2016年12月の間に亡くなった方

（研究の方法）

御遺体の一部の組織標本を作成し、骨盤解剖の解明を行います。組織標本は京都大学の消化管外科にて保管します。

（研究予定期間）

京都大学倫理委員会、愛媛大学倫理委員会の承認後の1年間（2015年1月26日～2016年1月25日）を予定しております。

【個人情報の取り扱い】

研究実施に係るデータを取扱う際は、対象者の秘密保護に十分配慮します。個人を特定し得る情報は記載せず、登録番号を用い当該実施研究機関外の者が研究対象者を特定できないようにします。結果発表の際にはプライバシーが十分に尊重され、個人が特定できる情報が外部に公表されることは一切ありません。

本研究に関する苦情や問い合わせ、御遺族より参加の拒否を希望される場合は下記にご連絡ください。また、個人情報の開示や改定を要求される場合にも下記にご連絡ください。それによる不利益は生じません。

【問い合わせ先】

- ・ 京都大学附属病院 消化管外科 研究責任者 坂井義治
実施責任者 岡田倫明
住所：京都市左京区聖護院河原町54 京都大学消化管外科医局
TEL:075-366-7595（平日9時～17時） FAX:075-366-7642
- ・ 京都大学医学部附属病院総務課研究推進掛
TEL：(075)751-4899
E-mail：trans@kuhp.kyoto-u.ac.jp
- ・ 愛媛大学大学院医学研究科医学専攻 解剖学・発生学講座 研究協力者 松田正司
住所：愛媛県東温市志津川 解剖学・発生学分野講座
TEL:089-960-5231（平日9時～17時） FAX:089-960-5233
- ・ 愛媛大学大学附属病院 肝胆膵・乳腺外科医局 研究分担者 高井昭洋
住所：愛媛県東温市志津川 愛媛大学肝胆膵・乳腺外科
TEL:089-960-5327（平日9時～17時） FAX:089-960-5329